

第11回委員会説明資料
第10回委員会での
指摘事項と対応方針

令和5年2月28日

国土交通省中部地方整備局
三峰川総合開発工事事務所

No	分類	指摘事項	対応方針・対応結果	備考
1	土砂収支	参考資料p.14について、経年土砂収支を見ると流入量に対し、バイパス土砂量が少なく、大部分がダム湖に堆積しているものと考えられる。排砂施設を有効活用するためにも、より多くの土砂がバイパスに流入する工夫が必要。また、バイパスとは直接関係ないが、今後の気候変動による外力増大に向けた対策として、より高濃度の濁水を排出できるように放流管の改修等を行う際は、放流管をより下部に設置する等工夫するとよい。	下流環境への影響も考慮しつつ、検討する。	
2		令和3年度8月出水は、令和2年度7月出水に比べ、バイパス放流時間が長い。一方で、バイパス土砂量が小さいと考えられる要因は何か。	SSが低く、土砂の濃度が薄かったこと、令和2年7月出水は出水のピークが複数回あったことから、SSが高い期間が長かったためと考えられる。	
3		今年度はストックヤードから約1.5万m ³ の土砂を排出したが、より多くの土砂を排出する考えはあるのか。	試験運用の結果を踏まえ、年に複数回の運用を検討する。なお、土砂収支計画における年期待値では年間3万m ³ を排砂することになっている。	

No	分類	指摘事項	対応方針・対応結果	備考
4	運用方法	今後の施設運用について、貯砂ダムを不透過型にしたことにより分派堰が2つあるような状態になっている。このため、ストックヤードに土砂が無い状態でもストックヤード経由で濁水を流した方が、より高濃度の濁水をバイパスに流せる可能性があるため、効率的な運用に向け検討してみてもどうか。	高い濃度の濁水を流入できれば良いが、最大40m ³ /sであること、浮遊砂が大半であると予想されることから、どの程度の効果であるかは不明。アイデアとしてはありえるため検討してみてもどうか。 ⇒今後方針を検討する	
5	付着藻類	ストックヤードの影響以前に、三峰川の付着藻類の無機物率は80%程度の高い状態が続いていることが課題と言える。無機物率が高いのが、出水時の影響と平常時のSSが高いことによる影響のどちらが効いているのか定かでないため無機物率が高い理由を考察しておいたほうがいい。ストックヤード運用前後で無機物率が大きく変わらないため問題が無いとは限らない。ベースとして無機物率が高いことに対して対応を考えて行く必要がある。	三峰川における付着藻類の無機物率が高い要因を分析考察し、委員会資料に取りまとめた。	委員会資料p22に記載。
6	高遠ダム点検放流	高遠ダム点検放流に対して下流のSSを観測する必要がある。また貯水池の中の滯筋の変化、崩落状況などを動画や静止画で記録するとよい。	連続濁度を観測している。また定期的にSSを観測している。	高遠ダムの調査結果を収集する。